

# ちから スポーツの力 ～する・みる・ささえる～

## 新しいレクリエーションスポーツ 「SSピンポン」

現在、市ではレクリエーション協会やスポーツ推進委員会を中心に各種レクリエーションスポーツの普及を図っています。

ボッチャやカローリングは各住民自治協議会でも体験会が実施されており、知名度が高まっています。今回皆さんに新たにご紹介したい競技はSSピンポン（サウンドテーブルテニス）です。

SSピンポンは三重県発祥の新しいレクリエーションスポーツで、卓球台とラバー無しラケット、音の出るピンポン球を使用する競技です。

ピンポン球には金属球が入っており、卓球台とネットの隙間をくぐらせるように返球します。

競技者は返球音やピンポン球が転がる音を頼りに



ボールの位置が把握できるため、障がいの有無に関わらず楽しむことができる競技です。

SSピンポンの大会は県内各地で開催されており、性別、年代を問わず幅広い競技者が活躍しています。

SSピンポンの道具は大山田B&G海洋センター（☎47-0551）に揃っていますので、利用の予約をしていただくとどなたでも体験していただけます。

スポーツの秋にSSピンポンにチャレンジしてみませんか。

**【問い合わせ】** スポーツ振興課  
☎ 22-9635 FAX 22-9694  
✉ sports@city.iga.lg.jp



# 伊賀市の文化財 148

## 紺屋町先達衣装新調

上野天神祭の鬼行列は、相生町・紺屋町・三之西町・徳居町の4町が継承しており、その中でも悪鬼や役行者、ひよろつき鬼や鎮西八郎為朝などに注目が集まりますが、役行者とひよろつき鬼の間の行列に、4人の山伏が先導する子どもの山伏とされる先達がいることはご存じでしょうか。

天保11（1840）年に製作された市指定有形民俗文化財の「伊賀上野天満宮祭礼九月廿五日行列略記」の版木にも鬼行列の中で描かれています。奴が傘をさしかけ、いかにも身分の高い人物を想起させます。



▲上野天満宮祭礼行列略記版木



昨年披露された先達衣装

よる損傷が著しく、このままの状態では将来の供奉行列に支障をきたす恐れがあることから、現着用の衣装をもとに、令和元年度から2年度にかけて、新調事業を行いました。この事業は、上野天神祭復元修理事業等審議会委員の指導のもと、伊賀市の補助を受け、京都市の織物工房が製作を請け負い、令和2（2020）年9月1日に完成しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、完成した年は上野天神祭のお祭りで初めて披露されました。今年のお祭りでは、先達にも注目して、鬼行列をご覧ください。

文化財課  
☎ 22・9678 FAX 22・9667

## 明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

### 思いやりのある行動を ー障がい福祉課ー

障がいのある人とは、身体障がいや知的障がいのある人、精神障がいのある人、発達障がいやその他の障がいのある人で、障がいや社会的障壁（社会の壁）によって、生活に制限を受けている状態が続いている人のことをいいます。

人によっては、複数の障がいがある場合や、その特徴や特性が目に見えて分からないこともあるため、周囲に理解されづらい場合があります。

障がいのあるなしにかかわらず、困っている人を見かけても、声をかけるのをためらってしまう人も多いのではないのでしょうか。

日常や社会生活にある「壁」（バリア）によって生じる困りごとや不便さに障がいのある人がどんなことで困っているのかを「自分や自分の家族だったらどうだろう」と想像し、自分のことと重ねて、考えや行動を振り返り意識することで、さまざまな気付きがあると思います。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ

障がいのある人から「ヘルプマークをつけていたのに誰も声をかけてくれないことがあった」という話を聞きました。例えば、電車やバスの中で席を譲るなど、見た目ではわからない障がいの特性があることを理解し、配慮を示すなどの心遣いを大切にしたいと思います。

市では、具体的な支援内容を周りの人に伝えるヘルプマークのタグを作成して配布しています。障がいのある人が声を出しやすい環境を整え、合理的配慮を当たり前に行えることが障壁をなくすことにつながると思います。

障がいのある人にとって生活しやすい環境やしぐみを整えるとともに、相手の立場になって考えるちょっとした心遣いと、お互いにコミュニケーションを取ることが大切です。

まずは、できることから始めてみませんか。

## IGAMONO セレクション No.42

【問い合わせ】 商工労働課 ☎ 22-9669 FAX 22-9695

俳聖 松尾芭蕉がかつて奉公していた藤堂家で詠んだ句「さまざまの事思出す桜かな」にちなみ命名した花紋干菓子です。桜を待つ心・愛でる心・惜しむ心、私たちが桜に寄せた思いもさまざま。そんな思いを俳風干菓子「さまざま桜」として郷土色豊かに仕上げました。香ばしい寒梅粉に山芋と砂糖を加え、水を使わずに伝統の製法で一枚一枚ていねいに作っています。海苔や胡麻の風味も加え3種類の味わいが楽しめる、桜の花びらの形が可憐な干菓子。素材にこだわり、やさしい桜色も天然着色料を使用して体に優しい商品にしています。



さまざま桜



株式会社紅梅屋 大黒 景司さん

株式会社紅梅屋は、1712（正徳2）年に創業して310年余り、城下町伊賀上野の旧大和街道沿いで和菓子製造販売を行っています。

関宿から伊賀上野を経由して奈良へ至る旧大和街道は、お祝い事にお菓子を振舞う習慣が盛んであったことから、多くの和菓子屋が軒を連ねており、今は「お菓子街道」とも呼ばれています。和菓子

が文化に根付いた地域で伝統の味を守りつつ新たな創意工夫、新たな風を吹き込んだ和菓子創りに励んでいます。

代表銘菓「さまざま桜」「竹のふし」をはじめとする松尾芭蕉を偲ぶ伊賀銘菓は全国の皆さんにご好評いただいています。ぜひ一度ご賞味くださいませ。

